

～小さな命を守る活動～ 「ふもとまでヒメギフチョウが たくさん舞う南雲の里」を目指して

渋川市立南雲小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

渋川市立南雲小学校は、群馬県を代表する赤城山のふもとに位置し、学校の東側には鈴ヶ岳、またすぐ近くを沼尾川が流れており、自然豊かな地域にあります。その特性を生かし、南雲小学校では様々な環境教育に力を入れて取り組んでいます。

平成7年度から、県の天然記念物に指定されているヒメギフチョウの保護活動に取り組むようになりました。関東地方では赤城山にしか生息しておらず、絶滅危惧種になっています。その貴重な生息地を生かした体験学習を行うことにより、児童たちの中に自然環境への関心が広がっています。



ヒメギフチョウを守ろうと児童たちは一生懸命活動しています



ヒメギフチョウを守るために

赤城山に生息するヒメギフチョウは、他の地域に生息するものに比べて体が少し大きく、赤い模様が鮮やかなことから、愛称「赤城姫」の名で広く親しまれています。

<ヒメギフチョウ保護活動の流れ>

- 4月 5年生が1年生にヒメギフチョウのことを教えます。また、講師の方を招いて自然観察会のための事前学習会を実施します。
- 5月 全校児童による自然観察会
- 6月 幼虫観察会
- 10月 ヒメギフチョウ保護を訴える看板立て
- 11月 地域交流会において保護者や地域の方々に保護活動の取り組み状況を発表します。

このように、年間を通して全校で保護活動に取り組んでいます。「小さな命を守る活動」を通して命の大切さや自然と人間との関わりに気づくとともに、自然豊かな南雲の里を守っていかうとする気持ちを育てています。



看板を作成し、ヒメギフチョウの保護を訴えています



児童たちは積極的にゴミを拾っています

保護者、地域、保護団体と連携した活動

全校児童での自然観察会の際にはゴミ袋を持参し、山頂までの山道や途中にあるキャンプ場でゴミ拾いを行うなど、ヒメギフチョウにとって生息しやすい環境を作ろうと、児童たちが自ら考え行動しています。保護者の方々も、キャンプ場で児童たちの昼食の炊き出しをしていただくなど、協力してもらっており、親子のコミュニケーションを図る場にもなっています。

毎年、10月にはヒメギフチョウの生息地域を守ろうと「赤城姫を愛する集まり」の方々、南雲の里父親クラブ、地域、市の教育委員会、ボランティアの方々など多くの方々の協力を得て山の下草刈りを行っています。平成20年度は、総勢約120人の方々の参加を得ました。同校の4年生も参加しており、実際に体験することで自然に触れる良い機会になっています。

保護者、地域、保護団体などの方々との連携して行っているヒメギフチョウ保護活動は、多方面で評価され、多くの表彰を受けています。

このように地域を挙げて一つの生命を守ることで、児童たちに環境の大切さ、守ることの難しさなど多くのことを伝えています。



多くの方々の協力を得て保護活動に取り組んでいます

【学校情報】※平成22年1月現在 群馬県渋川市立南雲小学校

◆住所

群馬県渋川市赤城町長井小川田1 4 3 5 番地

◆学校長：高橋誠

◆児童数：73名

◆創立：明治6年2月4日

